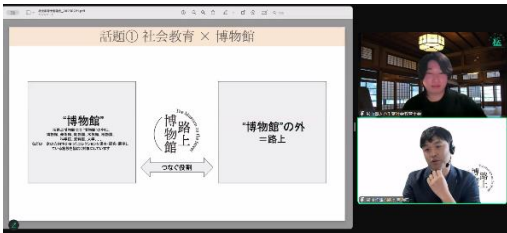


さわやかちば県民プラザ主催事業等実施報告

実施日	令和7年2月27日(木)		
事業名	生涯学習・社会教育実践研究交流会		
趣 旨	地域における生涯学習・社会教育の中核を担う社会教育主事等及びNPOや地域の社会教育関係団体関係者等、各市町村教育行政関係者等が一堂に会し、講演や実践発表、情報交換を行うことにより、参加者の資質向上や分野を問わない横の連携の構築を図る。		
会 場	オンライン開催(Zoom)		
対 象	生涯学習・社会教育に関わっている方や興味のある方 社会教育主事、社会教育士、社会教育主事有資格者、NPO等関係者、 社会教育関係団体関係者、社会教育・生涯学習担当職員、学校関係者 等		
申込方法	Web 申込		
募集定員	50名	募集期間	令和7年1月12日から令和7年2月13日
参加者数	33名(参加者29名、講師4名)	参加費用	無料
講師 等	【基調講演】 文部科学省 国立教育政策研究所 社会教育実践研究センター 社会教育調査官 白井 淳子 氏 【事例発表】 ①千葉社会教育士会 副会長 影山 貴大 氏 一般社団法人路上博物館 理 事 齋藤 和輝 氏 ②NPO法人えんてらす、南流山子ども食堂の会 代表 金川 聡美 氏		
実施内容	内容: ウェルビーイングの向上～地域とつながる生涯学習～ 日程: 午後12時55分～午後1時 オリエンテーション 午後1時 ～午後2時 基調講演 午後2時5分 ～午後2時55分 事例発表 午後3時5分 ～午後4時15分 参加者同士の交流会 午後4時15分 ～午後4時30分 諸連絡、閉演		
	 基調講演  事例発表①		

	 事例発表②
参加者 アンケート	【基調講演：満足度100%】 ○今まで見たことも聞いたこともなかったことに触れることができる、社会教育での学びにおいてとても大きな価値だと思う。「社会教育士」としての価値は、おそらくそんなつながりをサポートするところにあるのかもしれないと思った次第である。 ○中教審の指針を呼んでもウェルビーイングという言葉が沢山出てくる。その意味・内容が丁寧な解説で理解できたように思う。地域(自治会)でどのような仕掛けをしていったらよいのかも少しわかった。 【事例発表：満足度100%】 ○路上博物館は非常に興味深い活動だと思った。また「サイレント閉館」については危機感を感じた。 ○子ども食堂の事例は身近なことなのでこちらの子ども食堂でも生かせると感じた。 【交流会：満足度100%】 ○今回、同じ市内や隣の市に社会教育の活動を展開されたり、悩まれていたりされる方の存在をリアルに知ることができた。 ○活動地域と居住地が行政区分とは少し違っているため交流したかった地域の方々とはお話があまりできず、少しだけ残念だった。 【全体感想】 ○現在所属がなく、個人で社会教育の領域で活動できればと検討中。今後もこのような交流の機会をいただけると嬉しい。 ○国社研に行って聞くような内容をオンラインで聞けて、ありがたかった。その反面、対面で皆さんとお会いしたかった。 ○先日、岩手県の生涯教育発表会にオンライン参加して、そのイメージを持って臨みましたが良い意味で裏切られ、大変満足している(とても、開放的な感じで good)。企画にはご苦労が多いかと思われるが、これからもこのような機会を提供いただきたい。
担当者の 所感	【成果】 ・本事業の趣旨である「講演や実践発表、情報交換を行うことにより、参加者の資質向上や分野を問わない横の連携の構築を図る。」については、「ウェルビーイング」をテーマに基調講演、事例発表、交流会とスムーズな流れで展開することができ、参加者からは100%の満足度を得られた。 ・交流会については、所属や団体を問わない交流と地域ごとの交流に分けることで地域同士の連携を図る一助となったと感じている。

	【課題・今後の方向性】 ・参加者については、事前に途中退席をしないようにアナウンスしていなかったため、途中退席が目立った。そのため、参加者同士の交流会では事前にグループ分けしていたものが意味を為さなくなってしまった。途中退席をしないように申込みの段階でアナウンスする必要がある。 ・オンライン開催については、インターネット環境に左右される部分が多い。実際に講座中も運営側のパソコン2台の回線が途切れてしまっていたため、予備機の準備は必須であると感じた(今回別で2台、計4台のパソコンで運営を行った。)
--	--